

未来の命救う 医療ベンチャー基金

春日井の会長寄付名商が新設



医療ベンチャーの支援基金への思いを語る筒井宣政会長―愛知県春日井市で

交付金は二十万円からで、最高額は百万円。年二、三件の企業の採択を考えている。

名古屋商工会議所は、医療分野のベンチャー企業を支援する基金を新設した。医療機器メーカー「東海メディカルプロダクツ」（愛知県春日井市）の筒井宣政会長（七〇）の三千万円の寄付を元に立ち上げた。筒井さんは、医療機器の膨大な開発費に苦勞した経験があり、「支援を機にさまざまな開発が成功していけば、多くの人の命を救うことにつながる」と期待する。

基金は、ベンチャーや異業種から医療分野へ参入しようという中小企業を主に対象とする。開発初期で必要となる機器の試作などにかかる費用の一部をまかなう。一件当たりの

筒井さんは、妻陽子さん（七〇）と東海メディカルを一九八一年に起業した。心臓に先天的な疾患があった筒井さんの次女佳美さん（故人）を救うため、人工心臓の開発を始めた。費用面の問題から開発は断念したが、その後、輸入品しかなかった心筋梗塞の応急処置に使う「IABPバルーンカテーテル」の開発に成功した。筒井さんは、試作品が完成していないと融資を受けられなかった経験から、「そうした初歩の段階を手助けしたい」と強調。「基金でさらに人の命を救うことに貢献できるのを、娘も天国で喜んでいと思う」と語った。二〇一八年度の採択企業は来年一月にも決める。（酒井博章）